

## 第2学年国語科学習指導案

1 単元名 感想を深める  
読む〈文学1〉「字のない葉書」

2 単元について

### (1) 単元観

本教材は随筆である。筆者は「私」として表現される。しかし「私」自身の感情は抑え、家族の様子、特に父の様子を客観的な描写で淡々と書き綴ってある。本文からは、戦争という状況下にあっても家族がお互いに強い絆で結ばれていることや子を思う父の愛情、そして父親の「よさ」が味わい深く伝わってくる。筆者が作品当時の父親ぐらいの年齢になり改めて父を思っている、その思いの部分は詳しく書かれていないが、父の描写や父との思い出の中のいくつかのエピソードから、父親に感謝する気持ちやあふれんばかりの温かい思いが詰まっていることが想像できるのではないだろうか。言葉にできない思いや、素直に表現できない父親の不器用さを読み取りながら、登場人物のものの見方や考え方について自分の考えを持ちつつ読み深めることができる作品である。

### (3) 指導観

家族はもちろんのこと、筆者「向田邦子」の父への思いに寄り添って考えることや、父の娘に対する心情を読み深めていくことを指導の中心にしていく。末の娘を学童疎開させた父の心情を想像する手立てとして、妹から届く葉書から妹の心情の動きを想像させたい。生徒は小学校の学習で「読むこと」の事項に於いて「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」を経験していると思われるので、本文の内容をまた、私自身が昭和の父の姿を紹介することで、父をなぜこんな描写で表現するのか、なぜこのような言葉を使って表現されているのか、その時子どもとしての娘は何を思っていたのかということに興味を持たせたい。

3 単元の目標

筆者「私」の視点で書かれた文章を父の立場で書き換えることや、なくなった当時の父と同じような年齢になった娘から、父への手紙を書く(リライト)という活動を通して娘の心情を想像させ、読みを深めることができる。

### 【校内研究主題との関連】

生徒の主体的な学習を喚起するためには、まず、興味関心を高めることが必要である。そこで、身近なモデルとして、担任自身の父親ストーリーを導入に使いたい。生徒たちは「人」に興味を持ちながらどのように「人」を観察し、心の距離を判断しているのか迷っている。人物をどのように描写しているかを読み取るということは、日々友だちとの関わりにとっても必要な力であることを話してきている。人の動作、顔の表情、声色などから、相手の立場になってみることで自分がどのように関わることかを考えて欲しい。そのようなことを様々な文学作品や映画、ドラマに学ぶ「姿勢」を授業の中で意識して呼びかけて行くことで、友だちや家族の心情をわかりながら人間理解をしていくのではないだろうか。クラスの仲間と授業を通して考えを交流させることが、自身が友だち・家族をわかろうとする力となることを理解させ、主体的に活動させたい。

指導案に「校内研究主題との関連」を記載するようにして、校内研究主題との関連を明確にし、学校全体で授業改善に向けた取組を進めています。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①作品から考えたことを伝え合う学習に関心を持ち、人物の思いが読み取れる表現に注目しながら作品を読もうとしている。	①父から娘への手紙と、父が妹に持たせた葉書・学童疎開をめぐるエピソードに表れる父の人柄や子どもへの思いを想像し、内容理解に役立てている。 【イ】 ②筆者の淡々とした文章を読み深め、既習した「父親像」と自分の想像を加えて自分の考えをまとめている。【エ】	①日常や手紙の描写に表現される父の人柄に関する語句を文脈に合う意味で捉えている。

5 単元計画と評価計画(【】評価 ◎方法)

時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価と方法(◎)
1	○一般的な「父親像」を自由に思い浮かべて話し合う。 ○「父について」のプレゼンを見る。	○あくまでも本文の忠実な読み取りから外れないようにする。  <b>10の視点①</b> 身近な父親像を提示し、比較しながら作品を読み進めるよう工夫することで、魅力的な教材提示となり、生徒の意欲的な活動につながります。	【関①】 自由な雰囲気話し合っているか。 ◎観察
2	○範読を聞き、もう一度黙読する。  ○父を描写している表現を見つけて書き出し、それを手がかりにして父親像をまとめ、班で交流し合う。	○本文全体を前半「父から私への手紙」と後半「父が妹に持たせた葉書」とに分けてとらえさせる。 ○前半部分の「父から私への手紙」と、日常の父の描写に表れる父の人柄を読み取らせる。  ・暴君 ・照れ性 ・折り目正しい ・筆まめ ・大ぶりの筆 ・罵声 ・訓戒 ・貴女 ・時侯の挨拶 ・字引 ・三日に上げず	【言①】手紙の文章に表れる父の姿と、日常目にする父の姿とのギャップそのものに興味を抱き、語句を手がかりに父の「人柄」を読み取ろうとしている。 ◎ワークシート
3 本時	○後半疎開へ送り出す父の心情を想像する。また、「父が妹に持たせた葉書」からわかる妹の変化と父の行動を関連付けて読み、父の内心を想像する。	○疎開先での妹の変化を、○から×に変わっていく葉書を手がかりに読み取らせ、父の心情を「疎開前」「疎開中」「妹が帰って来る日」と追って想像し、読み深める。	【読①】疎開前に父がどんな思いで葉書の準備をしたのかリライトすることで父の立場になって想像し、父の心情に迫っている。 ◎ワークシート・交流
4	○あの頃の父と同じような歳になった私から天国の父への手紙を書くことで、父親像を多面的にとらえる。(リライト)	○「父さんへ」とし、学生時代に見ていた父親像と歳を経た自分がその時点で感じている父親像には違いが生じていることに気づかせる。(大人になり、親の思いをわかっていること・大人の男が泣くことへの驚きを今は懐かしく、愛おしく感じている。)	【読②】筆者のものの方や考え方に触れ、自分の考えをまとめている。 ◎手紙用ワークシート

6 本時の学習

(1) 本時の目標

妹を学童疎開へ送り出す場面を父親の立場でリライトすることで、父の心情を想像し、子を思う父親像に迫ることができる。

(2) 本時の評価規準

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する生徒への手立て
前時までの父親像の読み取りを基盤にした上で、描写から読み取ったこと以上に、父親の人柄や子を思う心情を表す記述が見られる。	場面の中の描写をもとに父親の心情を想像して、記述している。	父がしたであろう描写（具体的な動作）の記述に目を向けさせ、父の気持ちを想像するよう促す。

(3) 準備物 ワークシート

(4) 学習過程

学習活動	主な発問 (◎) と予想される生徒の反応 (・)	【評価】(方法) ○支援
1 前時の学習を振り返る。	葉書が届くことによりわかる妹の様子とそれに応じて変化する父の心情を想像してみよう。	
2 リライトに取り組む。 (個)	◎末の妹を学童疎開に出す場面を、視点を換えて父の立場になって書き換えてみよう。 ・毎日同じ屋根の下で見ていた娘の様子が見られなくなるのは不安だ。 ・なんとか娘の様子を知る方法は・・・あ、葉書を書かせたらいい。でもまだ字が書けない。 ・向こうは食料がここよりはあるだろうが、家族がそばになくて泣いたりしないだろうか。 ・病気をしないでほしい。	○簡単な例文を示し、本文に書いていないことも、自分で想像して生徒自身の言葉で書き加えてもよいことを伝える。(卒業ホームランのリライトを想起させる。)
3 リライト文を班で発表し合い、考えを交流する。 (班)	◎友だちとのリライトの交流により、父親について書いてまとめることでこの場面の父親の心情に迫ろう。(発表)  ・班の友だちのリライトと読み比べてみると、自分が気づいていない父親像がくっきりと浮き出てくるなあ。 ・父って、こんな気持ちがあったのか。表面からはわからない親の気持ちがわかるなあ。	【読①】生徒同士がリライトを発表し合い、父親像について書くことで読みを深め、父親の心情に迫れたか。(ワークシート・交流)  ○友だちのリライト文を聞くことで自分の考えと比較したり共感させたりしたい。
<div style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>【改善】</b> 3人称から1人称に書き換える「リライト」の手法を使って考えた文を班で交流する際、書いた紙を回して読み合うのではなく、自分の考えを筋道立てて説明できるよう自分の言葉で要点を伝えるようにした。</p> </div>		
4 父親像について発表する。 (全体)	◎3で書いたことを発表しよう。 ・威張っているように見える父も末っ子は可愛くて心配だったのだろうなあと想像する。 ・口数は少ないけれど、心の中ではあれこれと心配していたのだと想像する。 ・自分が今まで出会った父親像とはなんだか違うなあ。 ・卒業ホームランの「徹夫」とはタイプが違って、昭和の父って感じだな。	◎注リライトが困難だった生徒には友だちのリライトを読むことで父親の心情を読み取るように支援する。
5 次回の学習につなぐ。 (予告)		